



# 六甲山魅力再発見市民セミナー

市民セミナーVol.77  
東六甲の神秘・保久良山  
／猿丸 義也  
2009年8月発行

## 第77回テーマ： 東六甲の神秘・保久良山



講師：<sup>まるまる</sup>猿丸 <sup>よしなり</sup>義也さん  
プロフィール

1929年（昭和4年）生まれ、81歳、神戸市出身。1950年（昭和25年）国学院大学文学部卒業。昭和25年～平成3年まで39年間松蔭女子学院の教壇に立つ。昭和48年、父を継いで保久良神社宮司。敬神愛山の道歩む。

### 講演内容

- 六甲における保久良山の位置
- 保久良山の信仰と姿
- 保久良山と私

実施日：平成21年8月15日（土）  
午後1時～3時45分  
場 所：六甲山自然保護センター



一つ火の灯籠

### 六甲山上には秋の気配

表六甲のドライブウェイ沿いの樹木は花を落として深緑に変化し、山上は少し肌寒さも感じました。午前中の環境整備活動は「清掃ピカピカ隊」9名が応援し、総勢18名でササ刈りや観察を行いました。

お盆休みで終戦記念日の8月15日でしたが、40名という予想以上の参加者でした。講演に先立って全員で黙祷を捧げました。

### 保久良神社を支える猿丸さん

保久良神社宮司の猿丸義也さんは81歳の高齢で、膝の具合が良くないにもかかわらず、立ちっぱなしで朗々と神話を語られる、かくしゃくとした様子に参加者は感激しました。猿丸さんは宮司の家系で、お父さんが保久良神社を復興されました。教職を長く勤められた後、昭和48年に宮司を継がれました。

標高185メートルの保久良神社は古代の祭祀跡がある信仰の土地で、中世から海上交通の要所にもなっていました。景勝の山を愛し、先祖の偉業を伝えようとする猿丸さんの熱意に触れることができました。



保久良神社を訪れる人たち

### 神話の伝承も行楽の楽しみも豊か

講演では、六甲山系における保久良山の位置の解説がありました。保久良山の背後には海拔約300メートルの金鳥山がありますが、一帯は水成岩の地質で、六甲山よりも早く隆起した山です。

保久良神社の社殿を取り巻いて巨石が点在してお

り、昭和13年の社殿改築工事の際に土器などが出土し遺跡の指定も受けています。弥生時代から祭祀が行われた古くからの信仰の土地でした。

東六甲で一番海に突き出している地形で、保久良神社の灯籠は「灘の一つ火」と呼ばれ、大阪湾の航海の道標になっていました。

続いて、保久良神社のご祭神や地名の由来などを詳しくご紹介いただき、神話の時代にタイムトリップしました。そして、現在の行事や阪神大震災での被害など生々しい出来事、六甲山のハイキングコースとして貴重なトイレが活用されているお話など、多岐にわたって、保久良山の魅力を伝えていただきました。



出土した土器類

### 東六甲の鎮守の杜を大切にしたい

保久良山と保久良神社について知ることができました。岡本の市街地近くで歴史と自然が残っている景勝の土地、東六甲の貴重な鎮守の杜を大切にしましょう。

※詳しくは、1、2ページをお読みください。

### 参加の感想 寺田 和子さん

岡本に住み保久良山は身近な存在で日常的に訪れているのに、保久良山神社については知識がなく宮司の猿丸氏の講演ということで是非参加したいと思いました。

社殿周辺に岩石群があり紀元前5000年の土器等が出、この頃から人が住み祭祀を行っていたとのこと。2日後、岩石群を見に行くと古代の人の岩石信仰を感じました。神社としても古代遺跡としてもとても歴史ある貴重なことを知り、地元住民として大切にしたいと思いました。



### 【助成金をいただいている機関】

イオン環境財団、大阪コミュニティファンド、公益信託自然保護ボランティアファンド、公益信託TaKaRaハーモニストファンド

主催：六甲山を活用する会

協力：兵庫県立人と自然の博物館

後援：兵庫県神戸県民局、灘区役所、神戸市教育委員会